

愉快なひとときを過ごし、健康を増進できるのは誰れでもないやる人なんです。世話をする人ではないんです。それで利用する側で金を少しづつ出し合ってその程度のやりくりはせねばならないと思いません。

そういう考えが県民総スポーツ運動の基本になきゃならないと思います。私は本は人にやりません。私自身も買った本は読まないからです。買った本は読みます。農家の人に聞いてもらいたい、もらった苗は育たないといっています。なんでも、ただで、ただでとやっていると、かえって逆効果です。

### 不足している創意工夫

松浦 皆んな施設施設といいますが、工夫してやるということが足りない気がします。バレーボールでいうならば、歩道を歩行者天国にしてバスの練習をするという方法もありますし、庭で物干し竿をネットにすることもできる筈です。施設を整備して、「ハイ、いらっしやい」じゃなくて、自分達で工夫し作り出すということですね。条件が整備されていなくてはいけないということではいけませんね。

伊藤 皆さんいかがでしょうか、商店街のアーケードですね、ある時間がきたら、その下で働く人達の運動場にするんです。お店で働く人達はものすごく運動不足ですからね。私はアーケードの下を通りながらいつもそんなことができないものかと考えているんです。バトミントン、バレーのトス、いろいろ出来ると思うんです。これも工夫のひとつですね。

水島 学校の夜間利用に関してですが、一番問題なのは使用後の後始末の問題です。私の所の学校では用務員さんが夜間開放するのなら辞めるといっていました。それは使ったあと煙草のすいがらが何処にでもすてられ、ちりの山が残っていて、生徒が登校する前にこれをそうじするのが大変だというわけです。勿論、実際にやっている人は良いのですが、見物の人がすてるのです。そこで、体育指導委員の人や体協などの指導者の人が大会のときは勿論、機会あるごとに、マナーについて呼びかけましたので今は良くなりましたが、マナーは大切ですよ。

松浦 私達は準備運動、整理運動の中に掃除の時間を入れていきます。それで練習時の会場使用は問題ないわけですが、大会となるとそうはいきません。そこで大会の時は、開会式と競技開始の間に、じいちゃん、ばあちゃん、子供皆んな集めて肩たたき運動とか座ってできる運動をさせるんです。そのことで自分もこの大会に参加したんだという気持ちを持っていて、皆さんも一緒に参加したんだから最後のお掃除の時間までいてくださいということにしております。つき合っていただけです。

川野 女性の企画は本当にきめ細いですね。勉強になります。これからの企画には女性にお手伝いをお願いしなくてはなりませんね。

学校施設利用の場合、これを自分たちのグラウンドだという意識を盛りあげて皆んなで大事に使うということが大切です。利用団体と管理する教育委員会や学校と学校施設利用について十分話し合うことが必要だと思います。

それから、今からのスポーツ施設は、ただ広場があれば良いと言っているのではなく、今少し細やかな心づかいで、気持ちよくスポーツが出来る条件を整備していく必要がありますね。

松浦 私達のクラブ員で小さな子供さんがいる所は、なかなか出てこれないのです。だから体育館に子供が安全に遊びながら、運動能力や体力を伸ばすような遊具が欲しいですよ。とくに伊藤先生の所の体育館に置いてある色々な遊具をみてとくに感じました。

伊藤 私も奥さん達のクラブを持っていますが、子供づれでおいでになる方もたくさんいます。

## ◆県民総スポーツ運動の主役は「住民」

### ― 望まれる行政・団体依存からの脱皮 ―

司会 福島さんの所はゲートボールコートとともに、地区の運動広場の建設も進んでいるようですが、町から補助金を出しているのですか。

福島 それは全然出していません。老人のゲートボールコートは自分達でつくり、次に、地区全員がスポーツをやる場をということで話が出てつくられているわけです。ある地区では各世帯が六万円の拠出で五反の地区運動場ができています。北部町では地区住民の手でできた運動広場が四つあります。行政が金を出し作ればいいんでしょけど、どこの自治体もそこまで金はありません。行政のやることは、住民が努力してもできない規模の中央運動場を作るとか、指導者の養成とかではないでしょうか。指導者は末端の地区までこまめに足を運び熱心に指導をする。住民はスポーツを自分達のもので理解をし、創意工夫しながら、スポーツに取り組み、行政と末端の住民との関係はこんなものではないでしょうか。

### 期待される指導者像

司会 自分達の身近に、自分達の手で、スポーツの基地をつくるということは、

県民総スポーツ運動の主役は「住民自ら」であるの手本ですね。この運動をすすめる条件整備の一つに今の施設とともに指導者の問題があります。期待される指導者像とはどんなものでしょうか。

伊藤 私はいつも指導者の方に言っていることなんです。スポーツを普及させたいとお考えなら、欲は言いません、貴方の周囲の少年少女に限らず誰れでもいい、貴方のまわりにいる人をバトミントンなら「バトミントン」というのは小学生の羽根つきぐらいに考えたら、おもしろいかなあ」という人間を、バレーボールなら「玉ば手について何んのおもしろいかなあ」という人達に「ネットをはさんでボールを入れ合いますと、ほんにフアイトのわきます」という人間を一年のうち一人でも作ってくれというんです。そういう方がでてくることの波及効果というのには実に大きいですよ。

現在、私の所に体力づくりのお母さん方が七十名程みえますが、初めは「運動はへたですけん」と殆んどのお母さん方がおっしゃるわけです。でも、このお母さん達のようにダメだと考えていた人が「私でもやれるんでは」と自信を持った

時には、下手に自信のある人よりも進歩は早いんですよ。したがって、弱い人、下手な人でも気軽に、続けてくれるような「場づくり」というのが指導者として考えねばならないことですね。

水島 指導者は机上論だけではいけませんね、現場に飛びこんでいけというのが私の持論です。そうすれば皆んなついてきます。やがてその中から次のリーダーや指導者がでて、自主的な活動も出来るようになります。指導者は燃えなくてはいけません。

司会 松浦さん、家庭婦人として、クラブをひっぱって行くには色々な苦労があるでしょうね。

松浦 やはり燃えることでしょう。婦人の場合、どんなにスポーツは良いものだけれども、家庭の事情が優先します。家庭の理解を得て出てくるのが一番です。それで、良い妻よい母親であることが大切です。私達のクラブではその一

くさんいます。子供は遊具があれば喜んで遊びます。子供がクラブの練習日にはお母さんをさいそくしていますよ。それに施設には、やはり心づかいが大切です。たとえばテニスですが、バックネットのないテニスコートでテニスをやる子供たちは可憐で、打ちそこなったら運動場の隅まで球ひろいに行かなければならぬんです。彼等はラケットに球の当る喜びを知らぬままに「テニスはきつかねえ」といってやめてしまっている。

福島 さき程出ましたマナーの問題ですが、これは、スポーツが人々の連帯感の輪をひろげ、生活の豊かさを目標とする場合大切な問題だと思っております。私の町のゲートボールコートは地区ごとに自分達の手でつくられ、便所も、ベンチも自分達の手で作りあげたものとの愛着もあるでしょうが、とにかくちり一つ落ちていません。終わったら用具を丁寧に整備しておられマナーの面では全く心配はありませんね。町営グラウンドの場合も全く同じです。

水島 私どものコートでも、全部の話しあいで煙草は吸ったらいかんということにしています。早く来た者がコートを準備し、終わったら誰が何も言わなくても、きれいに帰っています。

つとして、クラブの日には、普通の日よりサービシしようということに約束が出来ています。いつもより仕事を手早く、夕食には料理を一品多く作り、お銚子を一本つけて、きれいに化粧をして、ここに笑ってお給仕して、クラブに出かけるわけです。するとこれが習慣になってしまえば、子供達からも夫から喜んで



▲学校の体育館は連夜ママさんバレーで活気をみせています